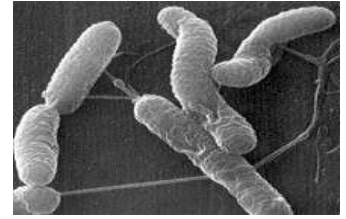


メスプニュース 第3弾!



日本消化器病学会編纂「Helicobacter pyloriの最新知見」より引用

今回のテーマ ピロリ菌について

ピロリ菌とは、胃に住む細菌で主に幼少期（5歳くらいまで）に感染し、感染は生涯持続します。また、胃がんの先行病変である慢性萎縮性胃炎の出現・進展に強く関与していると言われ、数年間の追跡調査の結果、ピロリ菌非感染者からはがん患者が出ていないことが多数報告されています。ピロリ菌の除菌で、がんや潰瘍の再発が抑制されることも知られており、今や胃がんは予防できるとまで言われています。

豆知識①（名前の由来）

ピロリ菌の正式名称は、ヘリコバクター・ピロリと言います。これは、右上写真のように数本のべん毛をヘリコプターのように回転させて移動することと、バクター（＝バクテリア）、ピロリ（＝胃の幽門部）で、ピロリ菌がその辺りからよく見つかることから名づけられました。

豆知識②（なぜ胃の中で生きられるのか?）

胃の中は強い酸性で、生物が生きていける環境がありません。しかし、ピロリ菌はウレアーゼという酵素を持っており、これを使って胃の中の尿素をアンモニアに変化させ、このアンモニアで胃酸を中和し生存できる環境を作っているのです。

除菌することで胃の状態が改善されるのか?

ピロリ菌がいること＝胃がんではありませんが、ピロリ菌が胃潰瘍・胃がんの原因菌であることは既に知られているところであり、除菌することで胃の状態が改善されることはメスプでの検査結果からも分かってきています。また、除菌後、陰性化しない場合でも、数値（抗体価）に明らかな低下が見られます。

	除菌前数値		除菌後数値	
	ピロリ菌	ペプシノゲン	ピロリ菌	ペプシノゲン
58歳女性	50.39 (+)	1.33 (+)	6.24 (-)	5.42 (-)
57歳女性	129.26 (+)	2.62 (+)	28.82 (+)	5.08 (-)
43歳女性	53.60 (+)	2.77 (+)	7.23 (-)	4.96 (-)
58歳男性	83.10 (+)	2.30 (+)	14.03 (+)	4.45 (-)

【平成 20 年度 メスプ細胞検査研究所での検査結果より抜粋】

※表の見方 陽性：(+)：判定基準値：ピロリ菌 10以上 ・ペプシノゲン 3以下、
陰性：(-)

※ペプシノゲン＝胃がんの高危険群である萎縮性胃炎の状態をよく反映するマーカー

検査師の話：皆さんがよくご存知のイチロー選手が所属するマリナーズがあるアメリカのシアトルでも、1997年からピロリ菌とペプシノゲンの検査が実施されています。シアトル市の日系人は、日本人に比べピロリ菌の感染率がかなり低く、萎縮性胃炎の割合も70歳未満では日本人の1/2以下です。胃がんは、環境要因の影響も強く受けていると考えられますね!

